

平成30年度 学校評価報告書

〔達成値〕 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

益田翔陽高等学校

学校重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標（到達したい状況・状態）	達成値	自己評価（反省及び次年度への課題等）	学校関係者評価
挨拶や時間厳守等、社会で通用するマナーを身につけた生徒の育成	生徒指導部	校外外で積極的に挨拶をさせる	生徒会、風紀委員会、教職員を中心に、日頃から積極的に挨拶を交わす。PTAと協力し、各学期にあいさつ運動を行う。	日頃から学校内・外で、あいさつができていますと答えた生徒の割合	A 96.8%	ほとんどの生徒が挨拶ができていますと答え、実際に学校内でも100%に近い生徒がしっかりと挨拶してくれている。「止まって会釈」というところを新たな課題として取り組ませたい。	B ・挨拶については、きちんとできていて生徒の様子も好感が持てる。 ・次年度への課題について、取り組んでいく部分で、具体的に内容が必要である。 ・各学年部で目標は異なっていてよいと思う。成長の具合で目標設定してもよいのではないかと思う。 ・校内外問わず、学生らしいマナー、服装という意味で努力してほしい。 ・評価は妥当で、頑張っておられると思う。
		社会に出ても通用する頭髪服装で学校生活を過ごす	定期的に頭髪・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。全教職員で日常的に指導を行う。	頭髪・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、日頃の指導ができたと答えた教員の割合	B 91.3%	日頃から指導できたと答えた教員の割合が86.3%と一番低かった。全体としては年々改善しているの、もう1度教職員一丸となって取り組んでいきたい。	
	寮務部	規律ある寮生活を確立する	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧にするように指導する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒および指導ができたと答えた教員の割合。	B 生92.9% 教78.6% 教95.7%	時間を守ることについては、みな意識を高くもってできていたが、整理・整頓が少し疎かになっている。特に舎室の指導を細かく継続して指導していきたい。	
		1年学年部	基本的な生活習慣を育成する	朝終礼や各授業の始業チャイムは、自席で着席して聞かせる。	始業チャイムを自席で着席して聞くことができたことと答えた生徒および聞かせることができた教職員の割合	B 生87.8% 教90.7%	
	挨拶・返事・言葉遣いがしっかりできるよう指導する。			校舎内・外において、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできたと答えた生徒および、できていたと答えた教職員・保護者の割合。	B 生96.7% 教85.4% 保85.5%	生徒自身と教職員・保護者の評価に10%以上の差があり、この差が埋まるように、明朗に相手に伝わる挨拶・返事・言葉遣いを指導していきたい。	
	2年学年部	基本的な生活習慣を育成し、明確な進路目標を設置する	時間を守る	朝礼や各授業の始業チャイムは自席で着席している。また、掃除の時間を守る	教 88.9% 生 93.6%A	教職員は89%の方が熱心に指導した。生徒は概ねできていますと考えている。しかし、時間が守られない生徒もいるため継続して指導が必要である。	
			服装・頭髪・挨拶・返事・言葉遣いに留意する	日常の服装・頭髪の基準を守り、挨拶や正しい言葉遣いができている。	教 89.2%B 生 88.6%B	挨拶についてはできていない生徒が多いようであるが(95%)、正しい言葉遣いや服装・頭髪については守られていない。引き続き自覚を促す必要がある。	
	3年学年部	時間を守る	始業チャイムは、自席で着席して聞かせる。提出物の期限を守らせる。	始業チャイムでの自席着席、提出物を期限内に出させることができた教職員、始業チャイムでの自席着席、提出物を期限内に出すことができた生徒の割合。	教 91.2%A 生 91.0%A	平均ではこの数字だが、提出物に関しては生徒評価Bであった。大多数の生徒はしっかりとやっていたが、一部生徒が恒常的に守れなかったように感じる。この点に関して学年、学校全体として指導をすべきだったと反省している。	
			挨拶・返事・服装・頭髪	社会で通用するような日常の挨拶・返事、服装頭髪ができるよう指導する。	社会で通用するような、日常生活での挨拶や服装頭髪をしっかりとさせることができた教職員、しっかりとできたと答えた生徒の割合	教 95.9%A 生 94.3%A	
	自己理解を進め、他者への思いやりをさりげなくできる生徒の育成	図書研修部	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒の割合	A 教98.0% 生94.3%	
保健相談部		教育相談活動の充実	生徒支援委員会の機能充実および校内・保護者・外部機関との連携強化	情報共有の場や生徒支援小委員会等が適宜開催され、生徒支援にあたったと答えた教職員の割合	A 教職員 88.2%	情報共有の場を適宜設けてきたが、情報共有や支援を必要とする生徒の数も多く、十分に対応できたとは言えない。次年度、情報共有の方法から検討していきたい。	
基礎学力の定着や専門的な知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒の育成	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	「教育課程実践モデル事業」を活用し、授業改善を図る。	生徒による「授業アンケート」の項目「授業内容について」の平均点。	B 3.45点	学校全体で授業改善の雰囲気が高まっていると感じている。2年間の当事業の成果は、充分にあったと考えている。次年度も継続させたい。	B ・各科、担当等を問わず生徒各々に適した進路指導ができています。 ・学習意欲に、生徒と先生の差があるので、生徒との対話を持って頑張ってもらいたい。 ・資格取得に対する生徒の意識があがるといえる。 ・専門分野を活かした資格取得にさらに力を注いでほしい。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。学力向上はすぐには成果は見えないので、息の長い取り組み・定着を願う。
		進路指導部	進路情報の迅速な発信	ホームページ、進路だより等で進路情報を積極的に外部に発信する。	進路情報が伝わったと答えた、保護者・生徒の割合	B 保89.0% 生89.5%	
	求人情報、指定校情報などを迅速にクラスに伝達する。			進路情報が伝わったと答えた、教員・生徒の割合	A 教100% 生89.5%	求人数が増えたので、1・2年生は希望するクラスのみ求人票配布とした。求人票と指定校のデータは共通フォルダにその都度アップしているため迅速に伝えることができた。	
	電子機械科	学習意欲の向上	専門科目において基礎的な知識と技能の定着を図るとともに、資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格取得・授業態度に関するアンケート結果	C 生68.4% 保100% 教100%	昨年度の48%からすると改善ではあるが、他科に比べ生徒の捉え方は低い。 資格も含め機械系ものづくり大会への参加なども検討したい。	
	電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する	資格、検定に合格及び技能修得した生徒の割合	C 71.4%	補習は昨年以上の内容を計画的に行うことができた。しかし、家庭での振り返りが少なく、合格者数の増加に結びつかない。補習のやり方・自己学習の仕方についてさらなる工夫が必要と感じた。	
	生物環境工学科	基礎学力の向上	個々の進路の実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得のための指導や個別指導、試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	A 91%	今後も継続して、個別指導や居残り学習・補修等を行ってきたい。	
総合学科	学力向上に努力する生徒の育成	生徒個々の能力、資質を十分に発揮させるとともに、これらを進路選択、人生設計に関連づけることができる態度を育成する。	資格、検定に2つ以上取得したと答えた生徒の割合。	C 57.3%	1年:2個未満5人、2個以上28人 2年:2個未満12人、2個以上27人 3年:2個未満30人、2個以上8人 63/110*100=57.3% 上学年になるにつれ割合が下がっているため、上学年へ資格取得の指導をしていきたい。		
社会との多様な関わりを通して自分の特性を生かした社会貢献ができる生徒の育成	総務部	広報活動の充実	学校通信・学校新聞の充実、メール発信とホームページの更新を積極的に推進し、閲覧数の上昇を目指す。	メール配信、学校通信・学校新聞の発行、ホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	B 91.4%	定期的な学校通信の発行やメール発信を行っており情報の提供が行われたと考える。未加入者へのさらなる啓発が必要と考える。ホームページの更新は、さらに各分掌、科、部活動等の協力を求める。	A ・HPの更新も充実しており、開かれた学校という意味でも評価は高いと思う。 ・地域、地元企業、行政との連携もできており、今後も継続して行っていただきたい。 ・もっと校外に発信する機会を持ってほしい。 ・これからも、翔陽高校の名前が外部にたくさん出れば、魅力化につながると思う。
	保健相談部	美化活動の推進	生徒保健委員会の活動を通じた校内美化活動の啓発	清掃活動などの校内美化に向けた活動の啓発が行われた、と答えた生徒・教職員の割合	A 教職員 90.2% 生徒 94.6%	評価としては高い数値が出ているが、校舎内に汚れの目立つ箇所もあり、校内美化に向けた活動を強化する必要があると考える。	
	農場部	魅力ある農業教育の推進	地域連携・貢献事業、校内連携活動を推進する。	実施回数30回	A 40回	今後も地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進して、魅力ある農業教育を行ってきたい。	